

オール益城で立ち向かう

新たな危機から、町民の命と生活を守る



益城町長 西村博則

5月14日、本県を含む39県の緊急事態宣言が解除されました。これまで、新型コロナウイルス感染症の感染リスク低減のため、ゴールデンウィーク期間を含めた外出自粛、休業要請等にご理解とご協力いただいた町民・事業者の皆さまに、心から敬意を表するとともに、感謝申し上げます。

しかし、さまざまな活動が順次再開されていく中、「二点の緩み」から感染が再び拡大していく恐れがあることを、私たちは認識しておく必要があります。また、町ではこれから、感染拡大の防止と、地域経済および住民生活の回復という目標を同時に達成していかねければなりません。そのために、私から町長として、町民の皆さまに改めてお伝えをしたいことがあります。

感染拡大の防止

外出自粛要請が段階的に緩和されていく中で、基本的な感染防止対策を徹底し、人と人との距離を保ち、接触機

会を低減し、三つの『密』を避けるといった「新しい生活様式」を町民の皆さまお一人一人が実践していただくことが重要となります。ウイルスが私たちの近くに存在することを前提に、今後とも感染症対策の確実な実施をお願いいたします。

経済、生活の回復・維持

町では、この危機を「オール益城」で乗り越えるために、独自施策として、お困りの方々を町全体で応援する「益城町「エール（応援）」プロジェクト」を開始しました。感染症対策に取り組む事業者を対象とした支援金給付事業や、県外で就学する学生を対象とした応援金の給付事業など、さまざまな分野やライフステージで頑張る皆さまを「オール益城」で力強く後押ししてまいります。

また、大雨や台風などの自然災害が増える時季となりますが、感染症対策にも万全を期した避難所運営等を行うため、必要な資材の購入や体制整備を前倒して実施するなど、熊本地震での経験も活かした「災害に強いまちづくり」も同時に進めていきます。

今回の感染症の完全な終息に向けては、長い道のりとなることが予想されます。町民の皆さまのご理解とご協力を、重ねてお願い致します。この難局を、共に乗り越えてまいりましょう。

新型コロナウイルス感染症に対するこれまでの対応

2月	21日	県内初の新型コロナウイルス感染症感染者が確認される。
	22日	前日未明の県内初感染者の確認を受け、「第1回益城町新型コロナウイルス感染症対策本部会」を開催。（以降、5月15日まで11回開催）
	25日	町備蓄マスクの配布を開始。（以降、5月15日までに学校や医療・介護施設等の計150カ所以上に約36,000枚を配布）
4月	8日	「益城町新型コロナウイルス感染症対策調整チーム」を設置し、感染症および経済対策の対応。
	16日	政府が「緊急事態宣言」の対象を、熊本県を含む全国に拡大。
	24日	町独自施策として、「『＃益城エール飯（めし）』事業」■開始。
	27日	小中学生への「学習支援図書カード配布事業」■開始。
5月	29日	「益城町事業者向け新型コロナウイルス感染症対策支援金事業」■開始。
		益城町新型コロナウイルス感染症対策関連情報（第1版）を全戸配布。
	1日	「新型コロナウイルス感染症対策本部経済対策部会」を設置。さらなる町独自の経済対策を検討。特別定額給付金（10万円給付）に関する電話相談窓口を開設。（5月11日から受付開始）
	20日	「県外大学生等応援金給付事業」■開始。

■益城町独自の事業「益城町“エール”プロジェクト」